

## 第 1 回犬山市観光戦略会議 議事要旨

日時：令和元年 8 月 30 日（金）14:00～16:00

場所：犬山市役所 2 階 205 会議室

## ＜委員発言の主なものを抽出＞

- ・大局的なデータが多いため、犬山市の資源がどうなっているかのデータが必要。
- ・山田市長は SDG s に関心をもってしていると聞いたが、今回の観光戦略と SDG s の方向性を整合させないとダブルスタンダードになってしまう。
- ・木曾川は最高の宝だと思っている。そこに焦点を当てるべき。
- ・学生や若い人の視点というのはとても重要で、うまく取り込んでいくことが肝要。
- ・犬山の観光経済をいかに域内循環させていくか。
- ・犬山の観光をいかに持続的に発展させていくのか。
- ・宿泊という視点でいくと木曾川の川端をいかに再生していくか。外の事業者が魅力を感じているか、進出意欲があるか。調査を是非していただきたい。
- ・何故、外から見て名物がないように思えるのか原因分析を是非していただきたい。
- ・どのような資源があり、その活用状況はどうか。即地的な分析が必要。その際は、人的資源も含めて、体験観光の担い手という面での現状把握が必要。
- ・城下町の交通混雑など色々問題があり、ある種のルールづくり、住民側の許容する心を広げる活動も必要。
- ・若い女性客にとって犬山は自分が主役になれる町なのではないか。
- ・本町通りが賑わっているが、期待したいことは 1 本違う筋に入ったところ、滲み出し効果。
- ・イタリアのアルベルゴ・ディフーズ、集落全体がホテルになっている手法もあり、城下町は分散型ホテルの可能性を検討することも大事。
- ・クリエイターが住み始めているところがあり、クリエイティブシティの可能性。
- ・名鉄グループとしてはレジャー施設の最大の集積エリアが犬山である。
- ・ホテルインディゴはインバウンド誘致にはなくてはならない施設になるが、経営側から見るとリスクがあり勝負に出たものである。
- ・なぜ若い人がくるのか。おそらく癒されている。車の心配なく歩け、電柱・電線がない爽快感。
- ・住んでいる人間が誇りと愛着を持てるまちにすることが持続観光を作るうえで大切。
- ・観光公害は一部の話。平日土日の差が激しく売り上げ 5～7 倍、雨が降ると違う。
- ・人の数を追っていると公害を生む。数ではなく質への変化をいかに作っていくか。
- ・名鉄がインディゴを選んだ理由は、1 番地元の文化・自然を生かした提案だった。
- ・犬山温泉は守らなければいけないものと思っている。